

令和5年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価（3月29日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	① 生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を旨とし、多様な学習活動において深い学びを実現していく。	① 知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、育みたい三つの資質・能力の育成に向けて、探究的な学びを推進し、相互の関連性を図るとともに、組織的な授業改善を多面的に進めていく。	① 校内授業研究テーマを踏まえた職員研修会や授業公開を積極的に行い、組織的な授業改善を実施する。 ①-2 授業のみならず、生徒の探究的な学びの成果を報告・発表する機会の充実を図る。	①-1 校内授業研究テーマを各教科で設定し、テーマを踏まえた授業改善を実施できたか。 ①-2 魅力と特色アンケート「A-4」の肯定項目が9割以上か。生徒による授業評価（項目6及び学校独自項目）の「かなり当てはまる」が4割以上か。	①教科それぞれの授業研究テーマを設定し、年間を通じて単元の指導と評価の計画を作成することができた。 ①-2 魅力と特色アンケート「A-4」は93.2%、生徒による授業評価は項目6が36%、項目9が32%、項目10が34%であった。	①引き続き、校内授業研究テーマを定めて、授業改善を推進していく。 ①-2 魅力と特色アンケートは昨年度と比較して上昇した。授業評価については、目標には到達しなかったが、上昇傾向にあるので、引き続き探究的な活動を深めていく。	知識・技能だけでなく、探究的な学びを重視している点が素晴らしい。生徒の学ぶ意欲をさらに引き出してほしい。	①各教科に即したテーマ設定をすることで、実社会とのつながりをもった授業を展開することができた。	①外部との連携なども検討していき、より実社会と教科教育の関連を図っていく。
		② 横浜国立大学との中・高・大連携型教育の一層の充実を図る。	② 中高大連携作業部会の活動を通じて、県立高校改革実施計画に示された中高大連携を充実・発展させる。	② これまでの取組を評価し、それを共有することで、横浜国立大学教育学部附属横浜中学校、横浜国立大学との連携を一層深める。	② 中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築実施計画の評価を行い、それを共有することができたか。	②附属中対象説明会、i-ハーベスト発表会、CAN体験授業、合同研修会等を行い中高大連携を充実させた。実施計画の評価を行い中学、大学、県教育委員会と共有した。	②連携枠で入学してくる生徒が充実した高校生活を送れるように附属中学校と協議を続ける。		②4年ぶりに国大体験授業を対面で行うことができた。連携の成果と課題を中学、大学、県教委と共有できた。	②共有した課題を引き続き、中学、大学、県教委と協議していく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	① 生徒会活動、部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと協働し支える力を育む。	① 新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い、活動の幅が広がった。コロナ禍での活動で起きた良い変化を継続しながら、より活発な活動が行えるように体制づくりを進める。	① 活動制約の中で行ってきた創意工夫を活かしながら、生徒の心身の状況や教職員の働き方に留意し、計画的に支援・指導を行う。	① 学校生活アンケートで「学校行事におけるクラスのまとまり」及び「部活動に満足している」の肯定項目が8割以上か。	①活動制約がなくなり、さまざまな場面で活発な様子が見られた。限られた時間・場所を有効に利用する工夫ができた。	生徒会活動、部活動の充実を図り、次代を担う心やさしき社会のリーダーを育成する。	伝統を継承した応援合戦、主体性を発揮するリーダーとサポートする生徒の連携等どれをとっても、高校生らしい迫力ある体育祭だった。生徒は、集団のよさや協力することのよさを感じることができたと思う。各行事は、それぞれの委員長を中心に大成功し、心やさしき社会のリーダーが順調に育っている。	①②感染症対策の緩和により、コロナ禍以前の規模の行事に戻しつつ、コロナ禍での変化（ICT化等）も新たに加え新しい形での行事を開催することができた。	①②より活発な活動になるように、各部活動、各委員会が協力しながら行事等に取り組める仕組みを考える。
		② 学校行事等において、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、主体的に参画していけるよう支援を行う。	② 行事を通して、集団の中の1人であることを意識させ、主体的な取組だけでなく、集団全体を導くリーダーシップをとれるように支援する。	② 所属する集団の中で自身の役割が何かを自覚させることで、主体的な行動を促す。また生徒会や委員会、教職員との連携を密にとらせ、行事が成功するように集団を導く力が身につくように支援する。	② 学校生活アンケート「体育祭」「光陵祭」「学芸音楽祭」の肯定項目が8割以上か。	②核となる生徒が動き、それに合わせて周囲の生徒が主体的に行動することができた。教職員とも連携を密にとりながら行事を成功に導くことができた。	三人行事のうち、体育祭と光陵祭は、ほぼコロナ禍前までのレベルで実施することができた。一方、学芸音楽祭は、大雪に伴う時程の変更で午前プログラムのみの実施となった。令和6年度は完全な形で実施し、三人行事のさらなる充実を図る。		③SCやSSWとの連携を密にとり、一人ひとりに応じた支援をすることができた。	③支援の必要な生徒については、全体で年度当初に情報共有できると、より一人ひとりに応じた支援が実践できる。
		③ 生徒一人ひとりに応じた支援を行う。	③ どんな支援が必要な生徒かを把握し、SCやSSW、外部機関も含めて、個別支援ができるように学校全体で支援体制を整える。	③ 情報共有の場を設け、学校全体で支援が必要な生徒の状況を把握する。SCやSSWと協力し、状況次第で外部機関につなぎ、早期の状況改善に努める。	③ 生徒状況の把握について、情報共有が図れたか。	③学年単位、SC・SSWとコーディネート間での連携を密に取りながら情報共有することができた。	③学年を飛び越えた範囲での情報共有の場を設けることが難しい。全体共有が必要なものを精選し、共有できるようにしていきたい。			
3	進路指導・支援	① 高大接続改革（高校教育、大学入学者選抜、大学教育）を見据えて、総合的な探究の時間をはじめとした教育活動を展開し、生徒による自己の在り方生き方の探求を支援する。	①-1 高大接続改革に係る情報収集、分析を綿密に実施し、生徒が自らの将来について主体的に探究することができるように、キャリア教育を実施する。 ①-2 生徒がより高い目標をもって進路選択ができるように、3年間を見通した進路支援	①-1 各教科・科目等を始めたすべての教育活動において生徒のキャリア形成につながるようキャリア教育、ガイダンス機能の充実を図る。 ①-2 生徒が最も希望する進路の実現に向け、生徒・保護者対象のキャリアガイダンスや、夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的	①-1 魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより、自分が成長できたと思うか」の肯定項目が8割以上か。 ①-2 キャリアガイダンスや夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組が、多面的に行わ	①-1 魅力と特色アンケート「A-2:キャリア教育により、中学生の時よりも社会的・職業的自立のために必要な能力が身に付いたと思いますか」の肯定項目解答は88.6%であった。 ①-2 夏期講習や勉強合宿、対面および動画によるキャリアガイダンスの実施を通し、生徒のキャリア形成や学力向上を図った。	①-1 引き続き、より多くの生徒が自らの将来について主体的に探究することができるように、キャリア教育を推進していく。 ①-2 各種講習やガイダンスの内容をさらに充実させ、生徒のキャリア形成や学力向上を図っていく。	高校時代の学問に対する関心や興味を完成させる場所としての大学・専門の選択に関する取り組みが進んでいる。教職課程の強みに加え、その他の分野で活躍する卒業生たちとさらなる連携を取ってほしい。	①-1と2 組織的なキャリア教育を展開し、生徒の進路実現に繋げることができた。 ①-3 学校設定科目「教職基	①-1と2 引き続き生徒が最も希望する進路を実現できるように、多様なキャリア教育を推進していく。 ①-3「教職基礎」「教職基

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価(3月29日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
		を計画・実施する。 ①-3 教職を志す生徒のための支援を充実させる。	とした取組を実施し、教職員の情報共有を促進する。 ①-3 教職を希望する生徒のために学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」の設定と実施。	れたか。 ①-3 学校設定科目「教職基礎」「教職基礎演習」において、充実した支援を行ったか。	①-3 学校設定科目「教職基礎」を58名の生徒が、「教職基礎演習」を20名の生徒が履修し、教職に関する実践的な学びに取り組んだ。	①-3 引き続き、県立総合教育センターや横浜国立大学と連携しながら、教職に関わる様々な取組を実施していく。	また、教員を目指していない生徒にも対しても、同じ熱量で対応していただきたい。	礎」「教職基礎演習」の内容をさらに充実させることができ、取組内容を校外にも発信することができた。	礎演習」をより組織的な取組にすることができるよう、引き続き改善を図る。	
4	地域等との協働	① 地域との連携を推進することで、多様性を尊重し、生徒の社会性や協働する力を育む。	①-1 新型コロナウイルス感染症の影響がある中で新しい地域貢献の形を模索する。引き続き、生徒の社会性、協働する力を養う。 ①-2 本校の教育活動を外部に広く発信していく。	①-1 近隣学校との交流事業や、地域貢献活動を継続して実施し、コミュニケーション能力の育成と他者理解を深める。 ①-2 学校説明会やホームページ等を活用し、本校の教育活動についての情報発信を行う。	①-1 参加した生徒が、自己肯定感、協働、活動の楽しさ等の満足感を得ることができたか。 ①-2 学校説明会等におけるアンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が8割以上か。	①-1 体育祭を保土ヶ谷支援学校の生徒が見学する形で交流を再開する予定であったが、雨天延期のため実施できなかった。地域貢献活動は今後実施予定である。 ①-2 全公立展、中地区合同説明会、第1・2回学校説明会を行った。アンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が9割以上であった。	①-1 行事を精選しながら交流を続けていく。地域貢献活動の実施の様子から、次年度に向けて良い実施方法を考える。 ①-2 引き続き、本校の教育活動の魅力が中学生・保護者に伝わるように発信していく。	教職基礎やボランティアにきている生徒との交流が中心だが、とても熱意がある。今後も学校間で情報を共有しながら取り組んでいきたい。 PTAとしてもぜひ保土ヶ谷支援学校と無理のない範囲で交流できたらと思う。	①-1 地域貢献活動に参加したい生徒も増え、生徒の意欲も高まってきた。 ①-2 本校で行う学校説明会で1500名以上の来場者があった。アンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が9割以上であった。	①-1 地域貢献活動の内容に応じた参加生徒を募り、多くの生徒が参加できるようにしたい。 保土ヶ谷支援学校と連絡を密にとり、交流できる行事を精選していく。 ①-2 引き続き、本校の教育活動の魅力が中学生・保護者に伝わるように発信していく。
5	学校管理 学校運営	① 学校がめざす姿を共有し、その実現に向けて協働して取り組める組織とする。 ② コミュニティスクールとして、学校運営協議会の意向を踏まえ、よりよい教育環境を整備する。 ③ 生徒が安心して通うことのできる体制を作る。 ④ 耐震工事の機会を利用し、教育環境の整備を行う。 ⑤ 生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①②③ 事故防止を徹底するために、教職員間のコミュニケーションに努め、情報共有を図る。また、体育館の改修工事に関する対応が迫られる中で職員のレジリエンスに対する理解を深める。 ④ 体育館改修工事の安全確保と良質な学習環境を整備する。 ⑤ 働き方改革を推進し、長時間勤務を是正する。	①②③ 多様な職員研修を実施し、中堅教員、ベテラン教員の経験を生かした若手教員のサポート体制及び学校運営協議会の意向を踏まえ、よりよい環境づくりに努める。また、生徒の状況把握や職員の連絡体制を充実させる。 ④ 体育館改修工事で教育活動にできるだけ支障のないよう関係機関との調整を行い、安全安心で快適な学習環境づくりに努める。 ⑤ ICT利活用を推進し、職員の報告・連絡・相談体制の整備及び勤務時間内の会議の徹底を図る。	① 職員研修の実施回数が12回以上か。 ② 職員への情報発信による共有化に努めるとともに、学校から外部への情報発信が推進できたか。 ③ レジリエンスに対する理解を研修や情報提供によって深めることができたか。 ④ 体育館改修工事中の学習環境を整え、生徒が安心安全に活動することを確保できたか。 ⑤ 教職員がICT利活用等により、組織的な学校運営と校務の効率化が図られたと実感できたか。	①②③授業改善に向けた職員研修や公開研究授業、事故防止会議等を計画どおりに実施し、学校が目指す姿を共有し、その実現に向け組織として取り組むことができた。 ④工事業者や他施設、他機関との調整により、体育館改修工事中の学習や部活動実施の環境を整え、生徒が安心安全に活動することができた。 ⑤ICT利活用により、会議のペーパーレス化に取り組むことができた。新・欠席連絡システムの導入・運用により、朝の業務の負担感が減少した。Googleカレンダーを用いた面談予約システムを一部クラスで導入し、保護者・教員の予定の調整の負担感が減少した。	①②③引き続き、各種研修会や不祥事防止会議、学校運営協議会等を実施し、学校が目指す姿の実現に向け組織的に対応する。 ④体育館の完成に伴い、物品の移動を教職員で協力して計画的に実施する。 ⑤会議を中心に配付物のペーパーレス化等に取り組んでいるが、長時間勤務の是正や校務の効率化が図られたと実感するまでには至っていない。	PTAもペーパーレス化に取り組み、タイムリーに保護者の皆様に情報を届けることができるようになった。学校もペーパーレス化による校務の効率化で、生徒と向き合う時間が増えるとうれしい。	④工事中の学習や部活動実施の環境を整えることができた。 ⑤会議におけるペーパーレス化が浸透してきた。欠席連絡や面談予約システムの利用により、連絡・調整の負担感を減少させることができた。	④完成に伴い、物品移動ができたが、不十分なものを今後充実させていく。 ⑤ICT利活用そのものの負担感を減らし、長時間勤務を是正できるような、ICTの日常的な利用を推進する。